



## 知的支援学級小学4年生

### 【発達障害かなあ？】

息子が発達障害と思うようになったのは、1歳半の健診前からでした。母子手帳にある「意味のある言葉をいくつか話しますか」「後ろから名前を呼んだ時、振り向きますか」の質問は「いいえ」でした。また、よくおもちゃの車のタイヤが自動で回っていることに興味を示したり、一輪車のタイヤをくるくる回したり、回るものへの興味が強かったのが何なのか不安に感じて、インターネットで調べると発達障害の文字が出てきました。またクレーン現象という言葉を知り、息子がその動作をしていることも気になりました。ただ、親が言っていることは理解をしていたようで、発達の遅れのかなど不安はありながらも、大きな病気をすることもなく、毎日元気いっぱい成長していたのが救いでした。

### 【パンダ教室の利用】

(現在は名称と対象年齢に変更があります)

保健センターのベビーパンダ教室は、こども園のような感じで、みんなでゲームをしたり絵をかいたり、息子は楽しく過ごすことができました。この教室は保健師さんや担当して下さった心理相談の先生やこども園の園長先生がスタッフでしたので、子育ての相談をすることができました。

次の年齢のパンダ教室へも継続で通いました。この教室では、始まる前にみんなの前で名前を呼ばれると手をあげてハイと返事をするのですが、息子はずっとできないでいました。そこで家でも教室のように名前を呼ぶことにしていました。すると、ある日突然にハイの言葉は出ませんでしたが、手をあげることが出来ました。きっと、集団の中で毎回やる行動の“呼ばれたら手をあげる”ことを自然に覚えたのだと思います。この時、私は涙が出るくらいうれしかったのを覚えています。

### 【2歳6カ月 心理相談～発達支援健診～医療へ】

- ・ 医師の診察・アドバイス
- ・ 心理セッション
- ・ リハビリ (OT/ST)
- ・ セミナーや研修会へ父母で参加

### 【幼児期のエピソード】

- ・ 園選択は公立こども園で加配を受けられると知り、申し込みました。
- ・ 就園前に、公立こども園体験入園をしてから加配面接を受けました。
- ・ 年少から入園し加配の先生が支援してくれました。
- ・ 「きらり」のセミナーや研修会へ父母で参加しました。

- ・ 入園時に、園と情報共有（子どもの様子を手紙に）を行いました。

### 【こども園での成長】

年少

入園当初こども園では、集団にすぐにはなじむことができず、息子は別行動をすることが多かったです。教室の中に棚で仕切るようなスペースを作ってください、そこが息子の安心できる場所になりました。息子は動物が大好きで、動物の絵をよく描いていました。それは、お友達にも認められていていつのまにか、こども園の中で息子は動物画伯になっていました。

年中

加配の先生が持ち上がり安定してスタートができました。一番驚いたのは、年中の時の運動会です。年少のときは運動会にはほとんど参加しないで、園庭の遊具で遊んでいました。それが、年中のときは、みんなと同じ応援席に座ることができました。また、競技にもちゃんと参加することができました。これには、主人も私もびっくりでした。

年長

加配の先生が変わったことでとても戸惑っていました。運動会が、まるで“年少の頃”に戻ってしまったかのよう、参加せず自分勝手な行動をしていました。

環境の変化がこんなにも行動に影響してしまうことだということがわかりました。そして、息子の様子を見て小学校は普通級ではなく支援級を希望するきっかけになりました。運動会以降は、息子は年長のときの加配の先生との信頼関係を築き、また通園するときに通る小学校へ友達と行くことをとても楽しみにするようになっていたこともあり、友達みんなと一緒に過ごせるようになりました。

卒園式では、まるで発達障害であることが嘘であるかのように、見事に最初から最後までお友達と同じことをすることができました。歌うこと、思い出やお礼の言葉言うことや代表で記念品をもらいに行くことなど、全部できて感動の時間でした。

### 【幼児言語教室】

就学に向けて、「集団（グループ）でのコミュニケーションがとれること」が目的でしたが、初日はグループのやり取りが全くできず個人でやることになりました。先生と一対一で行うことで、先生との信頼関係を築くことができ、問題をしっかりとやることができました。最後の日には、グループに入って小学校ごっこをやりました。すると、見事に最後まで落ち着いて取り組むことができるようになっていました。

### 【就学相談】

園長先生はその場ですぐ静岡市特別支援教育センターと小学校の両方へ連絡をしてくださいました。そして、先に園長先生が小学校へ行って校長先生と話をしてくださいました。

り、その数日後に夫婦で校長先生とお会いしてお願いをすることができました。また、就学相談も間に合い、5月に特別支援教育センターへ申し込み6月の審査を受けることが出来ました。

校長先生とお話をさせていただくと、校長先生もこの地域の小学校に支援級があった方が良くとの考えで、すぐに申請手続きを進めてくださることになりました。

特別支援学級が開設され入学できることになりました。本当に短い期間での静岡市特別支援教育センターとこども園と小学校のスピードある連携には、感謝しかありませんでした。

### 【入学前の準備】

- ・ 小学校宛に移行支援計画書を、こども園の先生が作成し提出していただきました。STの先生も作っていただきました。こちらは、私から小学校の担任の先生に渡しました。
- ・ 担任の先生へ息子の様子について手紙を渡しました。これは、研修で教えていただいたことで、こども園入園の時にも渡しました。とても参考になると、先生が喜んでくださいました。私も事前に息子のことを知り対応していただけたので、渡してよかったと思っています。
- ・ 入学式前に入学式会場の見学をさせてもらいました。このとき、小学校のはからいで、一人りハーサルをもさせていただけました。

### 【小学生のエピソード】

小学校へ登校することをとても楽しみにしていたので、入学式も嫌がることなく、お友達と同じように行動し、席に座ることができました。事前に入学会場の見学とリハーサルをさせていただいたことも良かったと思います。

担任の先生が出張で不在のときや、交流クラスで授業を受けるときに、落ち着かずにはなぐってしまったり、拒んだりしたことがあります。トラブルを起こしたことはないのですが、こういうことがあったときには、「学校の先生は、みんな、あなたの先生です。だから、先生の言うことはしっかり聞きます!」「授業の時、みんなはどうしていますか?みんな同じことをしているね。だったらあなたも同じことをしないとね。」「お友達もみんな我慢しているんだよ。あなただけふらふらあっちいたりこっちいたりしていいのかな」ということを息子と話すとき、正しい答えが返ってくるようになりました。何か困ったことがある都度、息子と話すようにし、覚えさせるようにしています。

### 【小学校生活】

入学式は最後まで困らず参加できました。

授業は、まじめに取り組んでいます。発表も積極的にするそうです。文章力や表現力は弱いのですが、自分なりの言葉で伝えようとしているそうです。休み時間には、外へ出て遊具で遊んだり走ったりして思いっきり体を動かしているそうです。給食時

間も大好きで息子の特性の一つでもあります。1か月分の献立を記憶し今日の給食は〇〇ですと言って教えてくれます。おかわりもしています。苦手な授業では、担任の先生が息子のペースに合わせて、じっくりと教えてくださいます。大好きな授業は、とても楽しそうにしているそうです。

### 【放課後等デイサービス 集団】 小学1年生から

友達と楽しく遊びコミュニケーションが取れることを目的に、楽しんでいっています。

### 【放課後等デイサービス 個別】 小学4年生から

挨拶やコミュニケーションなどのSSTを個別で支援

### 【親が心がけている事】

ヘルプの言える子になる

いつか、親元を離れなければならないときがきます。親が助けてあげられないとき、自分から「助けてください」と言えるようになることが必要だと教えてもらいました。そのとおりだと思いました。学校やクラブでこまったことがあったら「こまりました」「手伝ってください」と言おうねと教え、言えるようになりました。

くれない族にならない

息子が喜んでくれるであろうと思って何かをしても、喜んでもらえなくてがっかりすることがありました。でも、これは私の自己満足にすぎないことだと教えてもらいました。「せっかく〇〇してあげたのに、〇〇してくれない」と思わないようにしています。

まいつか しかたがない

息子が期待していたことができなくてがっかりして情緒不安になると、「まいつか!しかたがないだよ!」と、何かがあるたびに言い続けてきました。今では、自分から我慢したりあきらめたりすることができるようになりました。

### 【息子の得意なこと】

- ・ 動物の絵
- ・ 漢字を書く
- ・ 1か月分の給食メニューをすべて覚える
- ・ 社会の授業：都道府県を全部暗記

